



令和5年度 足立区総合教育会議

東京みらい中学校の取組み

令和5年10月26日(木)



情熱と行動が、人と社会と明日をつくる
学校法人 **三幸学園**



東京みらい中学校

TOKYO FUTURE JUNIOR HIGHSCHOOL

令和6年4月1日開校 東京都足立区足立1丁目13-26

足立区「旧足立千寿第五小学校用地活用事業」の公募プロポーザルにて事業者選定を受託

三幸学園が学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)を設置する理由

学園ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」・学園ビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」に基づき、学校に通うことが困難な生徒の新たな学びの場として“学びの多様化学校”の枠組みと特徴を活かした中学校を設置することで不登校という今日の教育課題、社会問題に対して取り組んでいく

三幸学園が東京みらい中学校を通して実現すること

1. 学校での対人関係の悩み、勉強についていけない不安、本人も理解できない体調不良等の精神的ストレスなどから解放し、登校へのハードルを下げ、対人スキルや基礎学習を一から学べる環境を創ること
2. 小中学校での教育課程内容が十分に履修できていない生徒に対し、特例校制度を活用して義務教育の学びの場を提供すること
3. 地元や周辺自治体と協働し、不登校問題に正面から取り組み、社会の期待に応えること



学園ビジョン

人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする

グラディエーションポリシー

好奇心を持って進んで学び、自ら考え、自ら行動することで社会に貢献する資質をもった人財

カリキュラムポリシー

学校内外における社会的活動・自然体験活動を促進して心身の調和的発達を図り、
社会の形成者として寄与する態度や基礎的な能力を養うとともに学びの多様化学校として以下の観点による教育課程を編成する

- 「生徒一人一人の習熟度に合わせた個別最適指導」と「クラスメイトとの関わりによる刺激・深化が得られる集団指導」の双方の良さを掛け合わせたハイブリッドな学習環境を編成する
- 個人の習熟度に合わせた個別学習時間を設置することで未学習部分を補い、学習サポーター（SC・SSW含む）を配置することで生徒と一緒に目標を設定した学習を展開する
- 社会を取り巻く様々な課題を自分事と捉え、向き合い、課題を解決していくための資質・能力を育成するための探究型学習活動を展開する
- デジタル教科書や学習喚起・学習定着を図る多様なオンデマンド教材などICTの活用によって学校と家庭での学習活動を充実させる
- 登校することが難しい生徒を対象として家庭で受講できるオンライン授業を編成・展開することで継続的な学習活動を支援する
- 人や社会との関わりを学ぶソーシャルスキル・トレーニング等によって自己理解やコミュニケーション能力の伸長を図る
- 多様なチャレンジの機会を設定することで「やったらできた！」という成功体験や感動体験を重ねていく『Sanko Success System』を展開する

校訓

「好奇心・チャレンジ・感動」 未来へ 一歩前へ

教育理念

技能と心の調和

アドミッションポリシー

不登校経験や心身の不安などから学校生活の継続が難しい生徒 自分のやりたいことやこれからの目標を見つけない意志をもった生徒

学校づくりの理念

きょう、選ばれる学校 あした、輝ける学校 みらい、誇れる学校

建学の精神

未来ある生徒の生きる力を育み、家族と社会を明るく元気にする

学園ミッション

人を活かし、困難を希望に変える



オリジナル教科『ソーシャルスキルトレーニング(SST)』『マイタイム』の段階的アプローチ

	SST ▶【社会性・人間関係構築】	マイタイム ▶【主体性・自律性】	関わり/きっかけ
【ステップ3】	<p>好奇心を持って進んで学び、自ら考え、自ら行動できるすることで社会に貢献する資質をもった状態</p> <p>⑨ 自分の夢や希望の実現に向けて 仲間と関わりあうことができる</p> <p>⑧ 何かに“感動”したり“感動”を与えた経験がある</p> <p>⑦ 考えをわかりやすく伝えることができる</p>	<p>⑨ 夢や希望・志を持ってみらいへ進むことができる</p> <p>⑧ 自らの課題を適切に振り返り、 次の課題設定に生かすことができる</p> <p>⑦ 何事にも当事者意識をもって取り組める</p>	<p>【ステップ3】</p> <p>後押し(協働・主体性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の役割を与える 発表する場を与える 一緒に振り返る <p>探求学習 発表 など</p>
【ステップ2】	<p>自己理解・他者理解・チャレンジができる状態</p> <p>⑥ 自信をもってチャレンジすることができる</p> <p>⑤ 一緒に活動ができる仲間が増える</p> <p>④ 協調性が生まれる</p>	<p>⑥ 学校生活において好奇心をもって 取り組んでいることがある</p> <p>⑤ 目標を実行することができる</p> <p>④ 自分の興味関心を深められる</p>	<p>【ステップ2】</p> <p>広げる(協同)</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事や授業の活用 一緒に活動をする 良い場面の言語化 <p>教科学習 学校行事 など</p>
【ステップ1】	<p>居場所(受容・安心・安全)として認識できる状態</p> <p>③ 他者の話に耳を傾けることができる</p> <p>② あいさつができる</p> <p>① 笑顔を見せることができる</p>	<p>③ 授業に参加できる</p> <p>② 1日の目標をなんとなく立てることができる</p> <p>① 自分の興味関心を把握する</p>	<p>【ステップ1】</p> <p>つなぐ</p> <ul style="list-style-type: none"> 信頼構築 情報提供 <p>ゲーム 休み時間 など</p>

周りに興味・関心がない・わからない / 自信がなくアクションができない



各学年の授業時間数を1015時間から775時間に再編成することで 生徒一人ひとりの習熟度に合わせた“個別最適指導”と刺激・深化が得られる“集団指導”を併用した学習環境での教育課程を展開する

① 授業時間・時間割の工夫

- ゆとりある始業時間の設定（9時30分始業予定）
- 実技教科・新設教科のみの授業日を設定（主要5教科を実施しない授業日）

② ICTの利活用

- 学習喚起や学習定着を図るためにICTを利活用して個別最適な学びや協働的な学びを支援
- 学習履歴など生徒の取り組みや努力の過程をタイムリーに記録・把握することで主体的な学習姿勢の獲得と自己効力感の醸成を支援

③ 学習サポーターの配置

- 通常授業は教員2名体制で実施
- スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等も授業・生徒の様子を観察して全校的な体制で支援

④ 個別支援

- 学習進捗や特性に合わせた個別最適な学習計画により学習指導要領の学習を網羅
- 長期欠席している生徒や発達に遅れが見受けられる生徒等、必要に応じてアセスメントを実施

⑤ ポートフォリオ評価の実施と家庭連携

- 学習状況・進捗管理・習熟度および生徒の成長の記録をデータ管理してポートフォリオを作成
- 連絡ツールを活用し保護者と情報の共有することで協力関係を構築

⑥ 居場所づくり

- 多様な生徒を想定して学校内でグループで集える場所や1人で落ち着ける環境などを設定
- 生徒からの相談には対面以外にもオンラインやチャット、ICTツールを活用した機会や環境を整備



グラディエーションポリシーの具現化

“好奇心を持って進んで学び、自ら考え、自ら行動することで社会に貢献する資質をもった人財”の育成

校訓「好奇心・チャレンジ・感動」未来へ 一歩前へ

好奇心を育み、多様なチャレンジの機会を設定し、小さな成功体験や感動体験を重ねられるプロセスを繰り返すこと(=学校全体での多様な教育機会を構築・確保していくこと)

学びの多様化学校としての学校づくりと連携資源(リソース)案

◎ 好奇心の醸成やチャレンジの機会を構築する学園リソース (対生徒)

- ▶ キャリア教育・職業教育に関わる「専門人材(教員・生徒)」「施設・教材・機器」「行事・プログラム」など
(スポーツ・健康・美容・製菓・IT・医療・看護・福祉・保育関連業界)
- ▶ ICT(先端技術)利活用における「映像教材」「撮影・記録」「オリジナルコンテンツ」など
(ウォークスルー3D動画(Matterport)・自由視点動画(SwipeVideo))

◎ 学びの多様化に関わる人材を支援・育成する学園リソース (対人材・対関係団体)

- ▶ 不登校・学習支援・発達支援に関わる「専門人材」「行事・プログラム」「各種取り組み」など
(フリースクール・児童発達支援センター(令和7年開所予定)・特別支援学校(仙台)・通信制高校)
- ▶ 心理を軸とした東京未来大学における「大学教員・学生」「研究」「地域連携センター」など
- ▶ ソーシャルワークを軸とした東京未来大学福祉保育専門学校通信課程における「専門人材(教員・受講生)」など